

令和 7 年度 第 1 回庄原市総合教育会議 議事録

日 時：令和 7 年 7 月 25 日（金） 15 時 30 分開会

場 所：庄原市役所本庁 5 階 第 1 委員会室

出席者：【構成員】

八谷恭介 市長 牧原明人 教育長 横山和明 教育委員
立花有佐 教育委員 捻金宏昭 教育委員 渡部要 教育委員

【事務局】

足羽幸弘 企画振興部長 荘川隆則 教育部長
田部伸宏 企画振興部企画課長 毛利久子 教育部教育総務課長
高淵直哉 教育部教育指導課長 八谷美幸 教育部生涯学習課長
安藤秀明 企画振興部企画課企画調整係長
ほか担当職員（1 名）

【議事進行】

八谷恭介 市長

欠席者：なし

傍聴人：4 名

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 議題

（1）庄原市教育大綱について

配布資料 1 に基づき、庄原市教育大綱（以下「大綱」という。）について事務局より説明を行った。第 3 期庄原市教育振興基本計画（以下「第 3 期基本計画」という。）の基本事項部分（基本理念と基本目標）を大綱とする方針で作業を進めていくことについて了承を得た。

第 3 期基本計画が策定された後に当該計画の基本事項部分を大綱に位置付ける方針を決定する。

（2）近年の少子化による教育現場への影響と今後の取り組みについて

配布資料 2 に基づき、少子化の進行に伴う児童・生徒数の状況と将来推計および将来を担う人的資源の育成と教育施策のあり方について説明した。

●意見交換

（市長）

説明にもあったとおり、本市の小中学生の数は、合併時の平成 17 年と比べて約 3 分の 2 以下まで減少しており、非常に厳しい現実がある。

そうした中でも、ふるさと庄原の子供たちが、地域に愛着を持ちながら、グローバルに躍動できる力を備えた人材として学び、育つよう、より良い教育環境を整えていく努めが、我々にはある。

そうしたことから、幼児期の教育から小中学校での義務教育、その後の高等教育も含め、質の高い教育を受けられる環境づくりを、教育委員会の皆さまのご意見を尊重しつつ、取り組んでまいりたいと思う。

こうした現状や、本市のめざすべき教育の道筋について、教育行政に深い知見をお持ちの委員の皆様方から、ご意見を頂戴したいと思う。

(横山委員)

庄原から巣立っていった子供たちが親になって帰ってくるためには、就業の場がないため、大きな取組として帰ってくる状況を作ることについて取り組んでいただきたい。

また、一度は都会に出ていったとしてもまた帰ってきたいと思うような教育を行っているが、さらに推進していく必要がある。

(捻金委員)

先ほど横山委員が言われたとおり、子供は一度市外に出ていくがそれについては仕方がない面もある。一度出ていった子供たちがもう一度帰ってきたいと言ってもらえるような魅力的なまち、例えば親世代になった時に仕事があって、教育の面でいえば、理想の教育を受けることが出来る環境などがあれば、将来ゆくゆくは帰ってくるのではないかと。

市外で子供が産まれても、庄原市に帰ってきた際にやっぱり地元はいいなど、ここに住みたいなどと再度思ってもらえるようなまちが出来ればよいと思う。

長期的な話にはなってくるとは思うが、子供のみならずまち自体の人口が減少しているので、教育だけではなく庄原市全体の社会情勢から考えていかななくてはいけないと思う。

(立花委員)

事務局の説明にもあったとおり、小学校や中学校などは地域の方と様々な行事を行っている。

帰ってくるためには、幼少期からの地域教育が大事で、そのためには大人が横のつながりを大切にする必要がある。また、教育委員会についても、幼保小中高校と連携をとって、就学も1年生が入りやすいように勉強会などの開催、保護者の方を対象に校長がPTA連合会で教育の話をされる取組などを行っている。このような取組を市民の方にもっと周知していくことが必要である。

また、私自身が取り組んでいることになるが、生涯学習に係り、本の読み語りのボランティアや図書館を通じて子供司書の養成講座に協力している。この取組には、教育委員会、保護者および図書館の協力で実施できている。

養成講座を受けた子供たちの中には、庄原に帰ってきて司書になりたいとか、図書館で働きたいとかいう子が実際にいて、現在大学の卒論で公共図書館に関する研究をしている子もいる。

小さなことではあるが、周りが協力して地域の子供たちに手を差し伸べることも大切だと思う。

(渡部委員)

庄原市の教育というのは、素晴らしい取組がこれまでにもある。私は教育現場にいたこともあるが、現場を見ると子供の人数は減少傾向ではあるが、各学校が学校にあった特色を持って教育を行っている。

その大元にあるのは、庄原市教育振興基本計画の中に位置付けられるものになると思う。それぞれ一人ひとりが力をつけていくというのを最大の目標として、各学校が特色を持った教育を行っている。

これまで行ってきた取組を発表できる場が、市内外であれば良いのではないかなと思う。1つ例を言わせてもらおうと、庄原市の教育フォーラムというのがあり、その中でも各学校が取組の成果を毎年発表しており、市外からも聞きに来る方がいる。

このような場があることは、子供達の自信にも繋がり、地元に戻って何かをしてみようかなという考えにつながるのではないかなと思う。

先ほどもあったとおり、小中学校は地域に密着した人とかかわりを大事にした取組をされており、これから成果が出てくるのではないかなと思っている。

ただ、基本は勉強を一生懸命頑張るといったところも含めている。

(教育長)

子供が育ってふるさと愛を持ってずっと庄原に住むという選択をする子もいれば、外に出て大きくなってまた帰ってくる、仮に帰ってこなくても庄原のことを忘れないという子供を育てるのが大きな基盤となる。

庄原の教育の良さについて話をさせていただく中で代表的な3つの良さについていつも話をさせていただいている。様々な活動の中でその3つが子供たちに浸透していけば良いかなと思う。

1つ目は、自然環境が恵まれている事。自然という素晴らしさの中で厳しさもやさしさも育つという土壌がある。実際に住んでいると、この良さは当たり前になっている。

色々な活動をとおして、こんなに素晴らしい環境で生活し、学び、遊んでいるということを実感してほしい。

2つ目は、隣近所とのつながり。昔から近所や地域の方と協力をして生活をしてきた。うれしい事や悲しいことも共有してきたし、野菜が出来ればお裾分けをするなどといった繋がりがある。そのようなつながりを大事にした子供たちに成長してほしい。

3つ目は、庄原市の子供たちは大変素直であるということ。市外の教員などが来られたら、庄原の子は素直で物事に一生懸命取り組んでいると言ってくれる。昔から言われているので、今の子たちも引き続き一生懸命物事に取り組んでほしいと思う。

以上3つのことについて、庄原市の子供たちが実感し、伝えていけると良いかなと思っている。

先般、3月下旬、石川県の方から電話があった。孫が庄原で働くようになったため、庄原市に行ったが嬉しいことがあり、そのことを伝えたいという内容であった。

それは、子供たちの挨拶がとてもよかった。自然に交わす挨拶。道路や横断歩道で渡った後、ありがとうとお辞儀をみんなしてくれたという内容。校長会や色々な場でこの話をさせ

ていただいた。

保護者、学校、教育委員会で一体となって何かできることはないかと話し合い、平成 30 年に「5つの心がけ（さくら習慣）」を作った。

庄原市の子供がどこに行ってもこの習慣が出来る様にしようと地域の方とも連携をとって実施している。逆に問題がある場合は注意をして、一緒に地域で子供を育てようという活動をしているし、これからも継続して行っていきたい。

（市長）

非常に庄原市の教育というのは、大変レベルの高い評価のされる素晴らしいものであると思う。

しかしながら、いかんせん子供たちの数が増えていくにはどうすればよいか、また実際教育環境をどのように整えていけば良いのかというのが、いわゆる子育て世代の若いお父さん、お母さんが庄原を選ぶ基準になってくる。

これまで取り組まれてきた中で育まれた子供たちは大変素晴らしいが、今後子供たちが行きたいと思う学校、また保護者の皆さんにも他の地域以上にこの場所で育てたい、学ばせたいと、今後我々が実現していくためにどのように考えていけば良いかご意見をいただければと思う。

（横山委員）

都市部の学校ではかなわない地域との連携は魅力的だと思う。親となって帰ってくる環境を作るには、やはり幼少期の楽しい体験、自分の育った地域を誇りにもてる教育が重要となる。そのためには地域との連携は欠かせない。幼保小中高の連携は大事で、例えば、東城町では高校生が小学生に東城の街並みをガイドして良さを伝える取組をされている。

伝えるには自分たちも学ぶ必要があり、学ぶ過程でこのような良さがあるのだろうと再発見できる。このような取組を通じて地元の良さを実感できる。

すると子供は一度外には出ていくが、自分が育った環境で自分の子供を育てたいという風な思いにつながっていくのではないと思う。

庄原市外の方も庄原の良さを感じて、庄原で暮らしてみたい、子育てをしたいと思う方もいるのではないと思う。

そのためには、親世代の働く場がないため、そのような問題に取り組んでいかないとけない。

（捻金委員）

各小中学校、庄原の中で色々な取組をされている。

西城中学校で一例をあげると、地元の刀鍛冶の方のところに行って釘をたたいてバターナイフを作るといった体験がある。

こういった体験は非常にいいが、庄原市のみならず市外に発信する方法はないと思う。それだけで庄原市の宣伝にもなるし、このような体験ができるといった情報発信が 1 つの手段になるのではないと思う。

また若者が望んでいるライフスタイルの認識。若者が何を望んでいるのかを何らかの方法で知ることにより、若者が帰ってくる一つの魅力を作ることが出来るのではないかと
思う。人口を増やす難しさを実感しているが、情報発信は1つの材料になるのではないかと
思う。

(立花委員)

小中学校のみならず市の公共施設が老朽化しているので、安心安全を保っていかなければ
ならない。私自身が活動している図書館も狭いので子供達が楽しめる場になっているの
かどうか疑問に思うこともある。今現在色々なことをしていただいているので、それ以上の
ことを望むのは難しいと思うが、緊急に対処が必要な施設等については整備をする必要が
あるのではないかと思います。

(渡部委員)

研究大会等で県内に庄原市の教育について発信が出来ているが、もっと色々な場所で
教育に関する発信が出来ればと思う。

教育委員とは関係がないが、私は子育て支援の一環で子育て推進委員という活動をして
いる。お母さん方と会って、何かできないかなということで、私が活動している西城では
子供服のリサイクルなどをしたりしている。町内には限られた子供しかいないけど、こうい
った活動もしているよという発信をしていくことで、その地域で安心して子育てができる
と思ってもらえると思う。

あわせて、赤ちゃん世代と保育所との交流も進めている。保育所は小学校と、小学校は
中学校とつながりを持っているのは庄原の良さだと思う。その良さを発信できる場が
あれば良いと思う。

(教育長)

本日の新聞を見たら市長が全国高校総体の開会式に行かれていた。私もその場にいたが、
高校生が見事なアトラクションを演技した集団の力や美しさが発揮され、心と心、人と人が
つながり、すばらしい姿に感動した。この姿は、広島県の高校生を大きく強くアピールして
いた。

庄原は、現在子供が少なくてもそまでのレベルには近づくことはできないかもしれない
が、もっと飛躍するアピールがいると思った。

学校はまず学力を付けなければならない。学力を付けることが社会で生きていく力とな
り、社会で自立していき、選択肢を広げることになる。

そのためには、学び方や学ぶ方法、教員の指導力を付けなければならないので、そのよう
な取組をして行かなければならない。

それにあわせて、子供同士が人間関係をつくり、心を豊かにしていく、体力を付けていく。
ベースとなるのは家庭や地域の力であり皆さんの支えがあって学校が成り立っている。
こうした取組をきちんと行っていくことが、「学んでよかった」「学びたい」ということに
つながっていく。

そして、教育の現状や課題、先進的な取組など発信の場として教育フォーラムを毎年実施してきたが、その他に色々な場でもっと発信する機会を考えていかなくてはならない。また、地道でも口コミでも広げていくようにしたい。

自慢できる子供たちなので、情報発信については努力していく。

(市長)

ありがとうございました。

様々なご意見にしっかりと取り組めるようにしていきたいと思う。

4. その他意見交換

(教育長)

市長にぜひとも子供たちが頑張っている姿や学校の取組など、参観して共感をしていただきたい。一緒に庄原をアピールしていけるとよいと思う。

(市長)

今の子供たちの可能性がすごいなと感じる。庄原の子にも高校総体の様なアピールする機会を作ってあげたい。僕が行って何かできることがあれば協力したい。

5. 閉 会 16 時 45 分